

令和5年度 第4回大木中学校運営協議会 記録概要
(兼大木中学校区・合同学校運営協議会)

- 1 実施日時 令和5年11月22日(水)16時00分～17時00分
- 2 会場 大木中学校・会議室1
- 3 出席委員
中嶋範生(委員長) 藤井さゆり(副委員長) 吉田四郎 小林綾子
杉本五月 藤田恭江 堀部亜矢 山中泰成 太田寛 樋口比呂磨
神原由明(校長)
- 4 事務局
大野ひさ子(地域コーディネーター) 伊藤佳代子(教頭)
- 5 研修会
 - (1) 研修会の演題(内容)設定の説明(長太小学校長)
 - 外国児童が増えている。また、年々増える傾向となっている。
 - その中でも日本語が話せない児童の支援に取り組んでいるが、集まってくる児童の人数が多い時などは、配置できる職員の人数に限りがあり苦慮している。
 - 教育支援課から通訳の方が来て支援いただいている。保護者への連絡もしていただいている。
 - このように外国人の子どもたちや保護者について、委員の皆さんに知っていただき、今後の支援につなげていきたいと思い、この演題での研修とさせていただいた。
 - (2) 研修
講師：鈴鹿市教育委員会事務局 教育支援課 中尾万弥
演題：すべての子どもが、互いにちがいを認め合い、共に生きる社会をきづいていくために ～学校・地域でできること～
研修項目
 - (1) 鈴鹿市の外国につながる子どもたちの現状・大木中学校区の現状
 - (2) 鈴鹿市の日本語教育について
 - (3) 日本語教育で大切なこと
 - (4) 学校、地域でできること
 - ・上記項目について、講師が作成したスライド資料を提示しながら研修会を行った。
 - (3) 質疑応答
質問：日本語指導において、資格等準備するものはありますか。

(講師：日本語指導の資格が必ず必要ということはありません。教員免許があれば日本語指導講師をしていただけます。)

感想等：鈴鹿市のお話を聞いてすごいと感心した。10年前にこのようなシステムがあるといいなと思った。指導していると思うのですが、外国籍の子どもたちは、自分の学級の中では大人しくしている。しかし、取り出し授業（国際教室）ではストレス発散している状態を見てきた。授業進度の差が常にあって、この差を埋めてあげたと思います。また、夢をなくす子が多いと思います。高校入試の頃に欠席することもあった。夢が持てる指導をお願いしたい。

(講師：夢を持ってほしいと常々思っています。教育支援課では、進学した外国人高校生を迎えて進路ガイダンスを行っています。)

質問：保護者の方が担任の先生とうまく話ができないと聞か、現在はどうなっていますか。翻訳アプリがあるといいなといった声もありますが。

(講師：保護者の面談には通訳を派遣しています。子どもたちの端末（クラウドブック）等のGoogle翻訳を使ったり、市民対話課の通訳と通信ができるタブレットを使ったりして対話をしています。最近は精度の高い「ボイストラ」といったアプリがあります。)

(長太小：ポケットクを準備して対応しています。)

(4) CS 推進コーディネーターより

- 現在は、市内小中学校で38校に外国人児童生徒が在籍していますが、以前はあまり分散した状況ではなく、特定の学校へ集まる傾向がありました。大木中学校区に入る外国人児童生徒は少なかったと思います。
- 地域においては、日本の文化を知らない方をどのようにサポートするのかを考えた取組が必要で、地域行事に参加いただくところからなどが大切であると考えます。

6 学校運営協議会委員の意見・感想等

- ① 鈴鹿市がいろいろなところと連携を取りながら、外国籍の子どもたちを支援・教育していることが分かり大変勉強になりました。
- ② 日本語にそれほど問題のない国際結婚家庭です。子どもたちは、小2、小4ですが、日本の文化には自然と身に付きますが、妻の文化とのズレに戸惑うことが多くあります。親のサポートも必要であると思います。それぞれが主張を引っ込めるのではなく、出していけるように学校でもよろしく願います。とても素晴らしいプログラムでした。

- ③ 教育支援課を中心に各学校の支援やその取組等を知ることができ、また大変勉強になりました。地域でできる事で本日学んだこと、教えていただいたことを持ち帰り、どのようなことができるかをしっかりと学んでいきたいと思いました。
- ④ 鈴鹿市で770名の外国人児童生徒がいるという事について、そんなに多いとは思っていなかった。学校の教育もすごいサポートがあることすら知らずにいた。本日の勉強会はすごく勉強になった。学校または子どもたちに対して、学んだことを参考に見守って行くようにしたい。本当によい勉強になりました。
- ⑤ 貴重なお話をありがとうございました。すべての子どもがお互いに違いを認め合い、共に生きる社会を築いていく、このことは保護者にもあてはまることだとおもいました。小学校のボランティアで授業に入らせて頂くことがあります。外国籍のお子さんから（問題がわからず）助けを求められることがあります。言葉が通じず歯がゆい思いをしたことがあります。アプリがすべてではありませんが、多くの人が使えるものがあると良いのになあと思いました。
- ⑥ 外国人の方が増えているという印象はもっていたが、教育についてはわからなかった。本日の講演を聞いて実状がよくわかりました。地域で、特にスポーツ行事などは参加しやすいと思いますが、小学生は英語もよくわからないし、ポルトガル語等の言葉では戸惑いが出てしまう。アプリなどが使用できるようになればもっと気楽に接することが可能になるのか。
- ⑦ 学校運営協議会に出席しないと知らずにいたことでした。日常的にも外国籍の方、子どもが地域行事にも積極的に参加できるようになればいいですね。
- ⑧ 貴重なお話が聞いて良かったと思います。子どもたちがお互いを分かり合える授業ができるとよいと思いました。学校の授業参観などでもグローバルな内容の授業などをして親同士の理解や親睦を深められたら良いと思いました。
- ⑨ 地域として何をすべきなのか（取り組むべきこと）を考えました。参加して初めて知ることがありました。来てよかったです。
- ⑩ 大変詳しく丁寧に段階を順に説明いただきよくわかった。個々から全体的に継続していくことのたいせつなことがよくわかりました。

- ⑪ もう 25 年前にタイへ仕事で赴任し、言葉の問題は苦労しました。スタッフは英語、職場がタイ語で学ぶことが多かった。現状の日本語教育システムの内容を聞いて充実していると思いました。是非とも自分の遺志が伝えられ、学校の学習が良く分かるとううにお願いします。
- ⑫ 外国人の子どもが多くいて、市立の小中学校で熱心に取り組まれていることが少しは理解できました。この子どもたちは、将来どうなるのかなと思ひました。
- ⑬ 今年度から社会教育委員と図書館協議会委員をしています。学校と地域が連携して子どもたちの成長を見守っていく、支えていく、そのために何ができるのか常に考えています。幸いにも現在公民館にいますので、サークルや講座などが公民館でできないかと思っています。是非、活用してください。大木中の図書館開放にも協力したいので、また、ご連絡いただくと嬉しいです。未就学の発達相談を受ける中で、外国籍の子ども日本語習得について悩ましいことが多いです。今日の話聞いて学校に行くようになれば大丈夫なんだと安心しました。
- ⑭ 箕田小にも外国籍の子どもたちが増えてきたので、いろいろなことを知ることができて良かったです。引越しをしてきたばかりだとなかなかなじめず、不登校につながってしまうかもしれないので、声をかけたり、自分にできることをしたりしていきたいと思ひます。
- ⑮ スライドの説明では深く知ることができないので、次回はもう少し具体的に時間をかけて欲しい。外国人の子ども多さに驚いています。地域での交流が少ないので、まちづくりの中で行事にもっと参加してもらえうような取組が求められています。できる限り協力していきたいと思ひました。
- ⑯ 分かりやすいと思ひましたが、とても難しいと思ひました。大木中学校区にかなりの外国籍の子どもたちがいるのでびっくりした。私たちも、その子どもたちの母国の勉強として身近に感じたいと思ひます。もう少し勉強したいと思ひました。
- ⑰ 親の関係で日本にきた子どもたち、早く日本文化や生活環境に慣れるようにすることが大切。しかし、何年程日本に居るのかによって、子どもたちの考えが必要ではないか。
- ⑱ 大きな（広い）意味で、違いを認める、自分ってすてきと思えることは、外

国の子だけでなくすべての子どもたちにつながることで、とても素敵な取り組みだと思います。地域の大人（遠くに年長者）にも、それが当たり前のこととして意識していけたらと思います。

- ⑭ 外国籍の子どもたちを受け入れるには、ひらがな、カタカナなどを指導すると同時に、文化や宗教の受け入れ、理解、寄り添いが必要だと感じました。高校入試や夢、やりがい事をあきらめてしまう現状があると知り、学校・地域・社会で取り組むことにより、希望を持ってもらえる環境になっていくことを願います。学校からのメールや、やさしい日本語はいつも読んでないので、目を通して実際外国籍の子や保護者との関わりで活用したいと思います。
- ⑮ 箕田小学校でも年々外国籍の子どもたちが増えてきている事は知っていましたが、鈴鹿市全体でこんなに多いとは思いませんでした。そして、鈴鹿市の日本語教育がこんなに進んでいることも知りませんでした。文化や言葉の違いを認めあうことは難しいこともありますが、子どもたちの日本に来た理由や、子どもの思いを改めて感じて、他人事ではないなと感じました。保護者もわからないことが多いので、各学校にこういう機会があれば良いと思いました。

7 その他

- 大木中学校の図書館開放ボランティア募集について、大木中学校地域コーディネーターから配付チラシを紹介し、各小学校で配付いただくよう依頼した。